

統一様式による「政策医療を担う中心的な医療機関」 からの説明及び協議

- | | | |
|---|------------------------|-------------|
| ① | 社会医療法人 稲穂会 天草慈恵病院 | P 1 ~ 2 2 |
| ② | 医療法人社団 永寿会 天草第一病院 | P 2 3 ~ 3 4 |
| ③ | 一般社団法人 天草郡市医師会立苓北医師会病院 | P 3 5 ~ 4 9 |

平成 30 年 12 月 熊本県天草保健所

【統一様式】

社会医療法人 稲穂会 天草慈恵病院 が担う役割について

平成30年 12月 天草慈恵病院

1 自施設の現状 理念・基本方針、基礎情報

経営理念

地域の人々に対し予防から予後まで心のかよった包括的医療サービスを科学的かつ適正に行う。

基本方針

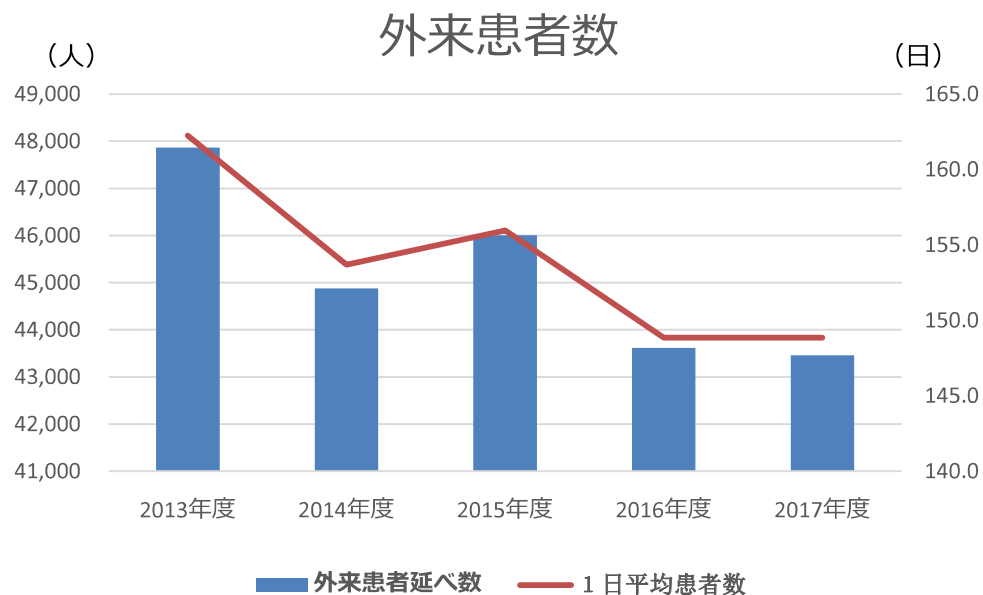
- 1.安全性の確保
- 2.共生社会の実現
- 3.資質の向上
- 4.経営基盤の強化

基礎情報

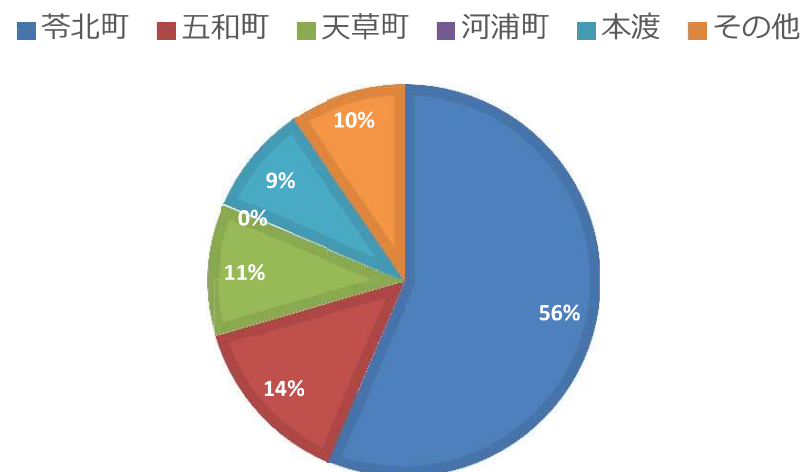
- 許可病床数 169床
急性期:42床 (10:1入院基本料22床、地域包括ケア病床:20床)
回復期:34床 (回復期リハビリテーション病棟入院料2 : 34床)
慢性期:93床 (療養病床入院基本料1、2 : 93床)
- 主な指定
救急告知病院
- 診療科
内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、精神科、小児科、血液透析、眼科、発達小児科、整形外科、リハビリテーション科、耳鼻咽喉科
- 職員数
医師 常勤7名 非常勤 16名、歯科医師 非常勤1名、薬剤師2名、診療放射線技師4名、臨床検査技師4名、臨床工学技士2名、管理栄養士4名、栄養士1名、理学療法士14名、作業療法士4名、言語療法士2名、看護師48名、准看護師38名、介護福祉士42名、看護補助者33名、MSW 2名、PSW 1名、医師事務作業補助者2名、ケアマネージャー 6名、その他 27名

1 自施設の現状 診療実績

外来



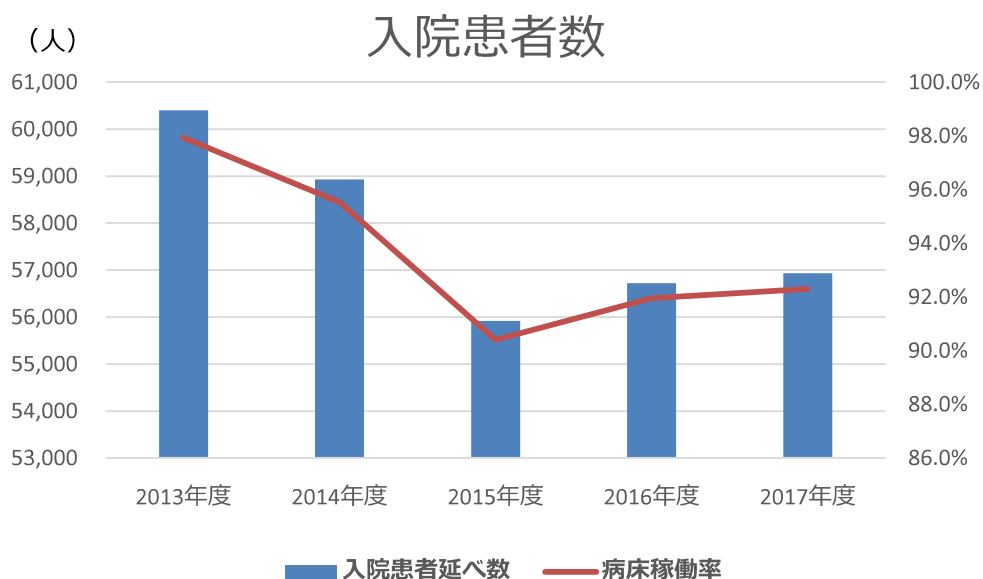
2017年度 外来患者地域分布



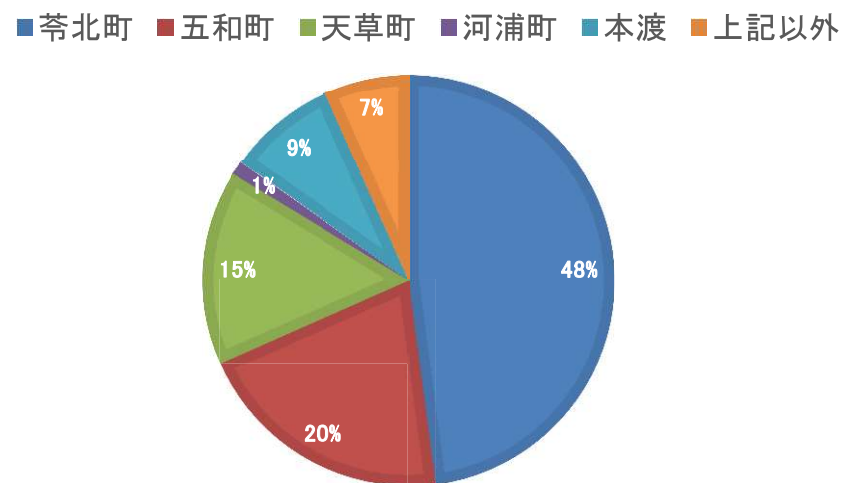
- ・年度集計外来延べ患者数はインフルエンザ流行に伴う一時的な増加は認めるものの、診療報酬改定に伴う維持期リハビリテーションの介護保険への移行もあり、全般的には減少傾向
- ・外来患者の居住地は、苓北町、五和町、天草町で81%を占める

1 自施設の現状 診療実績

入院



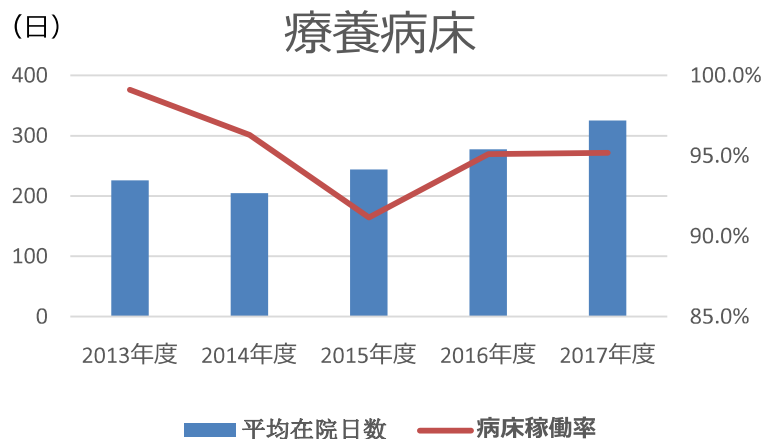
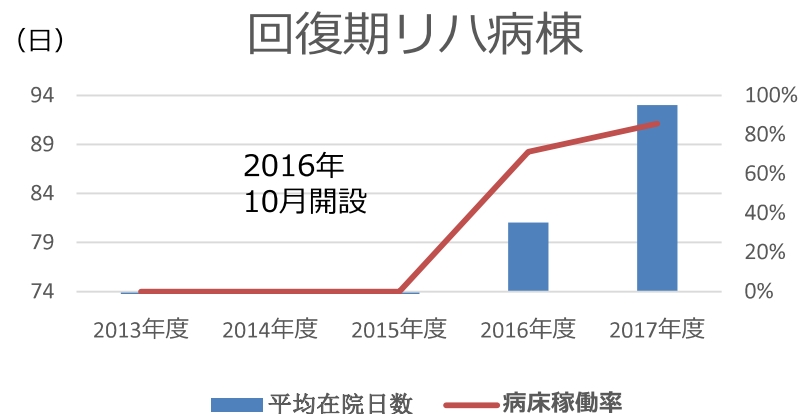
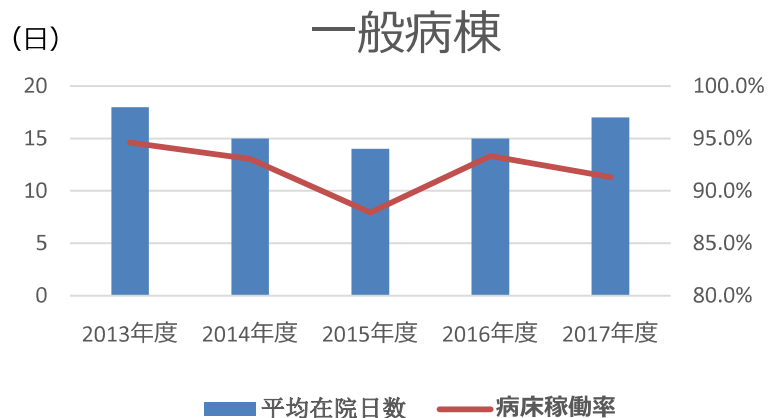
2017年度入院患者地域分布



- ・ 年度集計入院患者延べ数は、地域の他介護施設への入所増もあり、減少傾向と なっている。しかしながら直近2年は増加傾向
- ・ 入院患者の居住地は、苓北町、五和町、天草町で83%を占める

1 自施設の現状 診療実績

入院

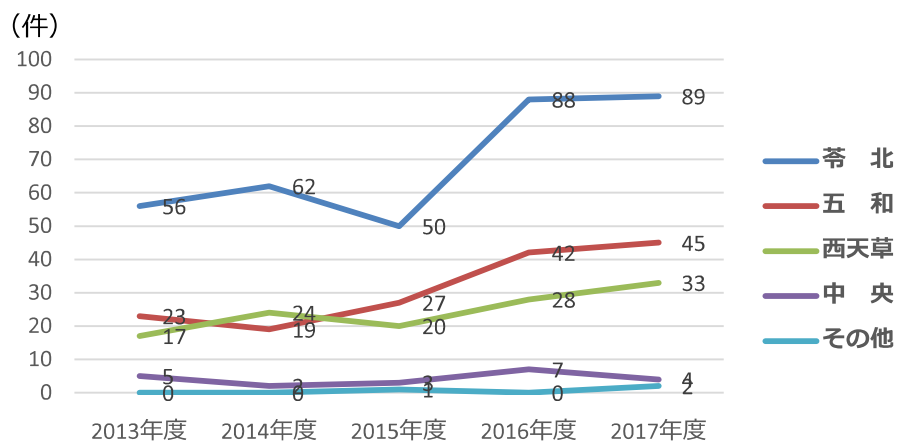


- 急性期病床稼働率は、2015年度に一時的な低下を認めるが、90%以上を維持
- 2017年度、回復期病床（2016年10月開設）稼働率は85.6%となっている
- 慢性期病床の稼働率は毎年度90%以上となっている。在院日数の増加については、療養病床施設基準の厳格化も一因と考えられる。

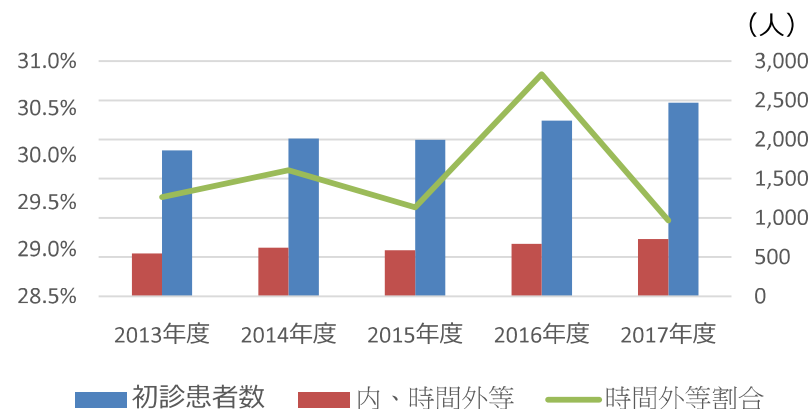
1 自施設の現状 政策医療

救急

救急搬送件数



外来患者初診患者数

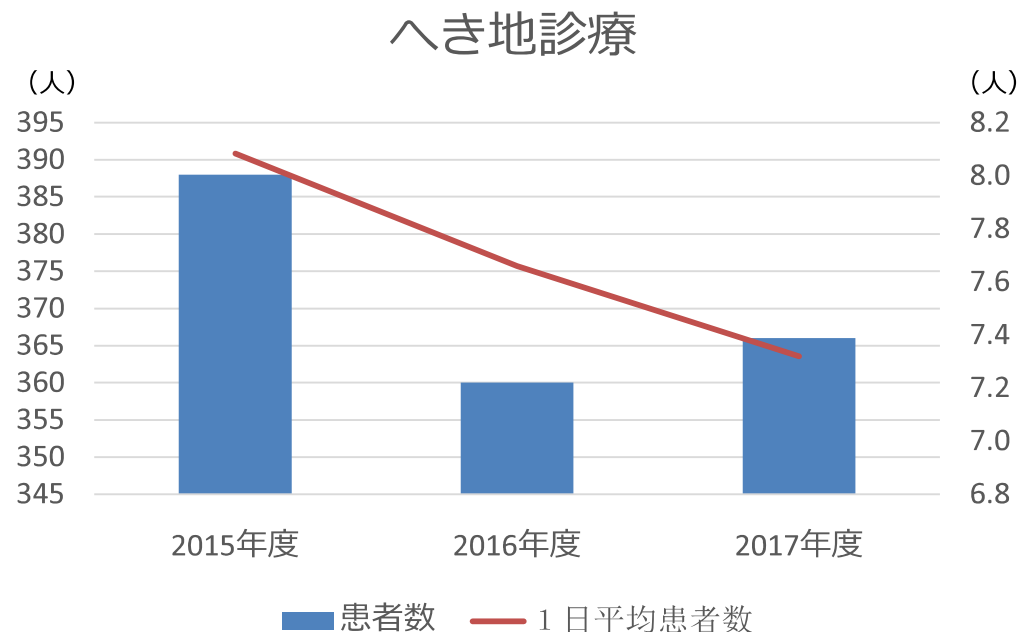


- ・ 救急搬送件数は近年、増加傾向
- ・ 2017年度、搬送分署は、苓北、五和、西天草分署で83%を占める
- ・ 外来初診患者における、休日、時間外外来受診者割合は毎年度25%を上回っている

* 社会医療法人認定要件：時間外等加算割合が20%以上であること（医政発第0331008号より抜粋）

1 自施設の現状 政策医療

へき地



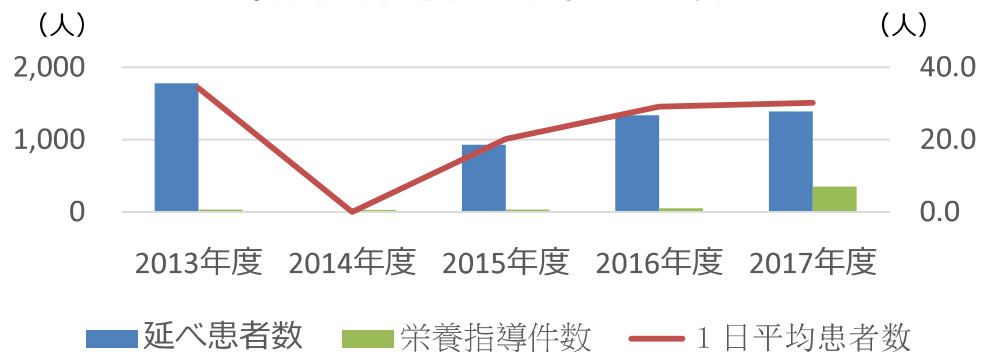
- 2015年度より、教良木診療所へのへき地診療所支援を開始
(天候不良等による交通規制により派遣日数は年55回を計画しているが、年度により異なる)
- 第7期熊本県保健医療計画において、へき地医療支援病院として指定
 - * へき地医療支援病院とは、へき地医療支援機構の指導・調整の下、へき地診療所やへき地医療拠点病院に対する医師派遣又はへき地における巡回診療について一定の実績を有し、へき地医療を業務とする社会医療法人の認定を受けた病院

(熊本県第7期保健医療計画より抜粋)

1 自施設の現状 政策医療

糖尿病

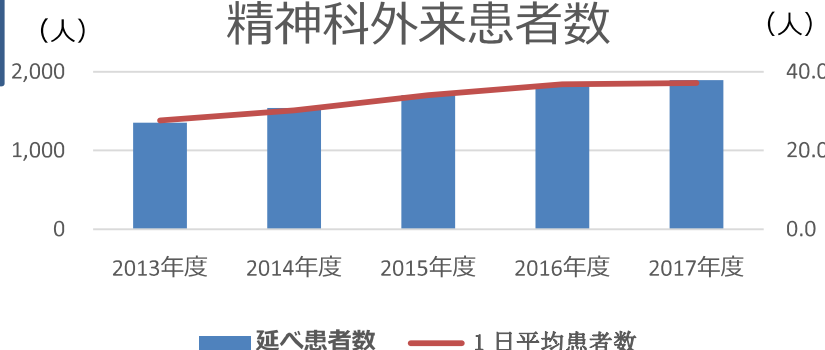
糖尿病専門外来患者数



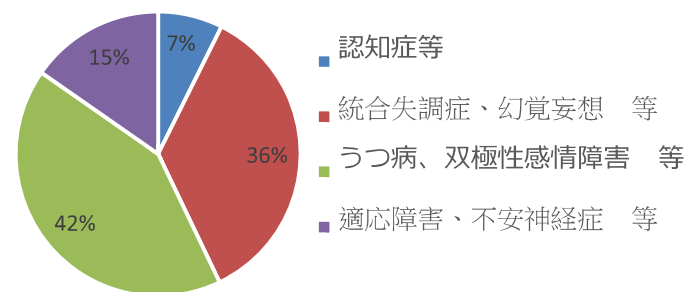
- ・ 2014年度は専門外来閉鎖となっていたが、2015年度より九州大学代謝内科からの診療協力により専門外来を再開。外来患者数は増加傾向
- ・ 糖尿病外来患者に対する栄養指導も強化し、外来栄養指導件数は増加

精神

精神科外来患者数



精神疾患分類

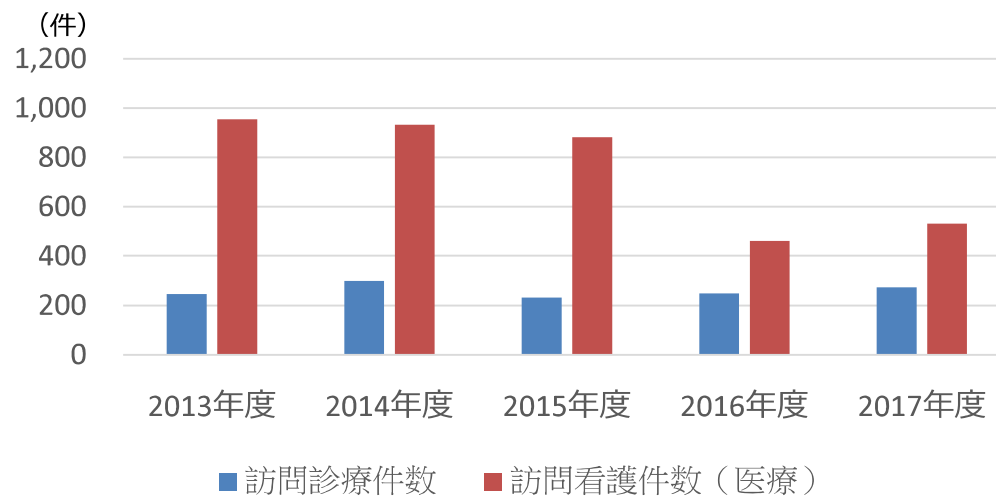


- ・ 精神科外来延べ患者数は増加傾向、年々需要は高まっている
- ・ 2017年度、外来患者疾患別分類においては、統合失調症および妄想障害、気分感情障害（うつ病、双極性感情障害）神経性障害、ストレス関連障害で92.6%を占める

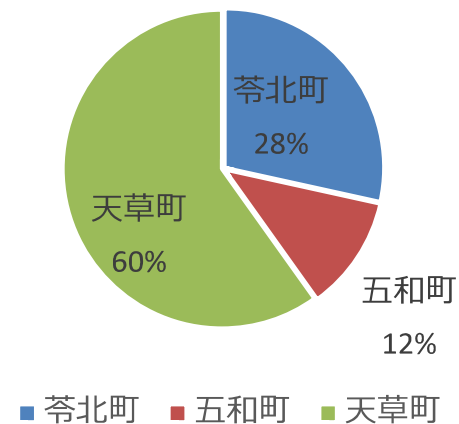
1 自施設の現状 地域に根ざす医療

在宅

在宅医療



訪問診療地域分布



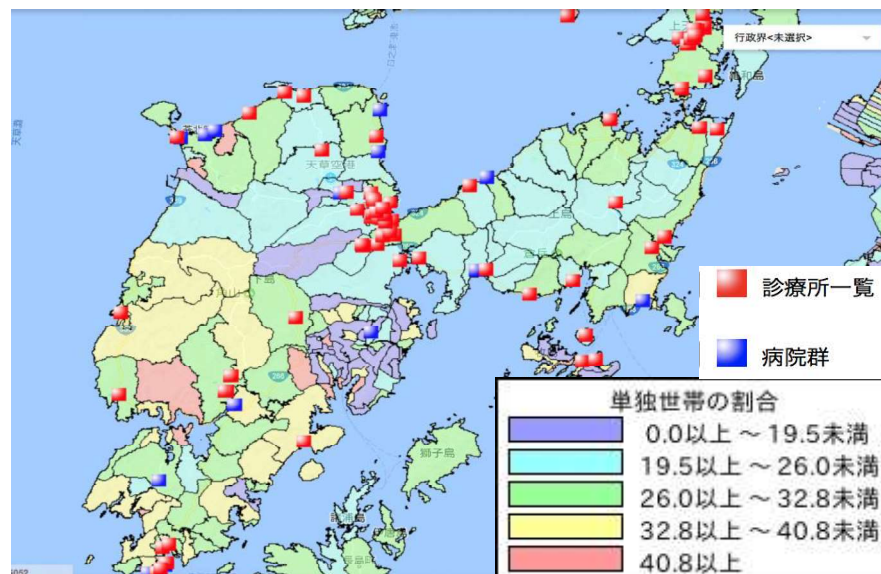
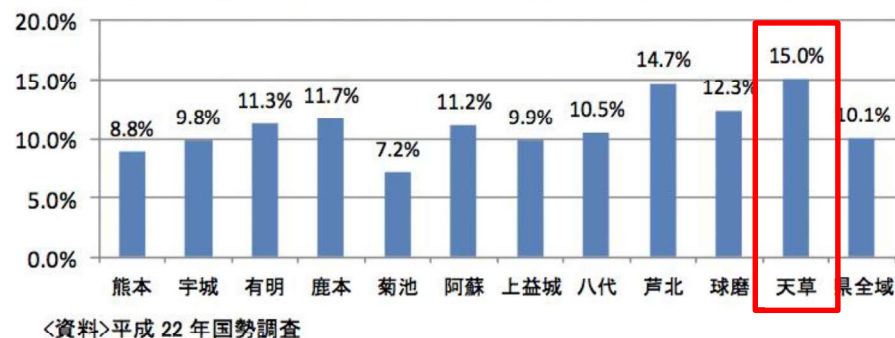
- ・ 訪問診療延べ件数は横ばい（入院や天候にも左右される）
- ・ 2017年度、訪問診療患者居住地は、苓北町、天草町で88.4%を占める。特に天草町におけるニーズは高い
- ・ 2015年3月に熊本県からの要請も受け、河浦町にサテライト型訪問看護ステーションを開設。天草町～牛深地区までカバーできる体制を整えている

1 自施設の課題

1、独居高齢者、老々介護世帯への対応

天草医療圏は県内でも一番単独世帯割合が高い。特に天草西海岸地域においては、単独世帯が多いにも関わらず、担う医療機関の少なさが目立つ。地域包括ケアを達成できるよう、自治体や他医療・介護施設とも協力して、十分な医療・介護提供体制を確保する必要がある。

【参考：2010年における圏域別の高齢者（65歳以上）の単独世帯割合】

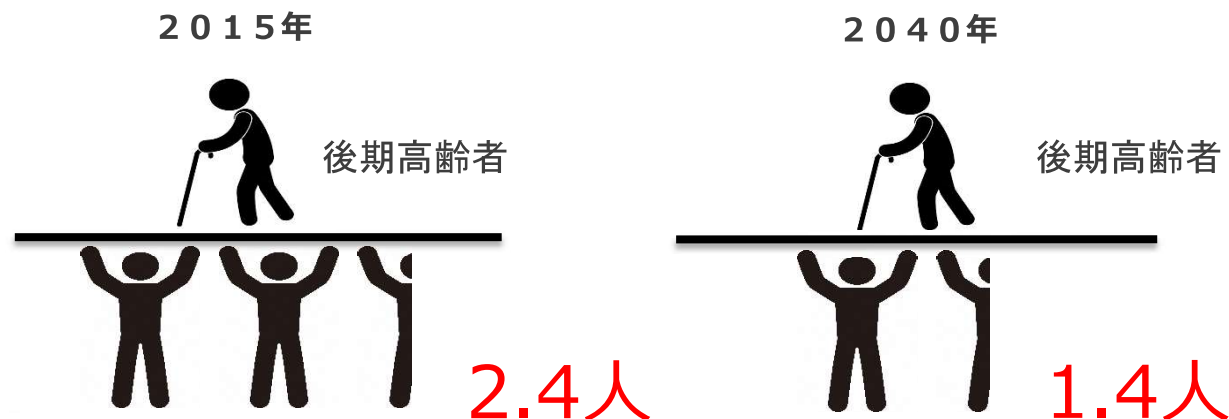


1 自施設の課題

2、人材の確保

天草医療圏内の高齢者は増え、働く世代の人口は減少していく。医療・介護の需要は今後もしばらくは増えていくことが予測されており、地域における医療・介護供給体制を保持するために当法人においても、各職種の確保が今後の最重要課題となってくる。

高齢者を支える人数（天草医療圏）



2 今後の方針 【地域において今後担うべき役割】

1、地域における「かかりつけ病院」機能の強化

- 社会医療法人として夜間、休日、時間外を問わず1次、2次救急体制を整え、特に天草西海岸地域の医療提供体制を確保する
- 地域のクリニックや介護施設等の後方支援病院としての役割を強化する
- 日々の診療、健康診断の推進により、生活習慣病からの早期重症化予防に努めるとともに、地域における「かかりつけ病院」として、自ら地域に出向き地域住民への健康支援指導活動にも参与する

2 今後の方針 【地域において今後担うべき役割】

2、地域包括ケアシステムの達成と在宅医療の推進

- ・在宅療養支援病院として、地域の実情を正確に把握し、全ての方に在宅医療を推進するのではなく、1人1人の状況に合わせ、様々な選択肢を提供できるような施設となる
- ・介護、障がいがあったとしても地域で暮らしていけるよう、これまでの経験を生かし法人内の訪問看護ステーションや訪問介護事業所、またグループ内の養護老人ホームや地域密着型特別養護老人ホームなどの施設を最大限利用し切れ目のない医療・介護提供する
- ・ICT等の技術の発達を利用し、他施設との連携を強化する

2 今後の方針 【地域において今後担うべき役割】

3、回復期機能の強化

- ・ 医療圏内唯一の回復期リハビリ病棟として、天草全域におけるリハビリ提供体制の機能の強化に努める
- ・ 急性期や回復期における、より早期からの集中的なリハビリにより、心身機能の改善、回復やADLの向上を図ることが重要視するとともに、加えて維持期、地域や自宅での生活を見据えたりハビリを行い、在宅復帰を目標とするなかで、アウトカムを常に意識する
- ・ 要介護被保険者等にかかるリハビリについては、医療保険から介護保険へ円滑に移行できる連携を図る

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期			
急性期	42	42	42
回復期	34	34	34
慢性期	93	44	44
その他		49	49
合 計	169	169	169

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その2】

急性期：一般病床(20床)においては、高齢者に多い軽症急性期を中心に、突発的な疾患に対し「治す」医療を提供する。一方、地域包括ケア病床(22床)においては、慢性疾患を抱えながらも、地域で暮らしていけるために、一時的な急性増悪の受け皿機能の役割（サブアキュート）を強化していく

回復期：生活の質の向上を目標に、在宅復帰を念頭に置いたアウトカム思考のリハビリテーションの提供を集中的に行う。社会福祉士専従配置を行い、より早期からのスムーズな在宅復帰、在宅復帰後の介護サービスへもつなげていく。また、休日のリハビリテーション体制の強化も行っていく

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その3】

慢性期：医療区分2・3該当患者割合8割以上を維持し、より医療的治療、処置の高い患者の入院継続が可能となる病床として位置付ける。また、人生の最終段階をどのような医療を受けたいのか、本人と家族と話し合いを十分に行い、適切医療の提供を行う。常に在宅復帰を意識し、生活を主体とした安全・安心の医療提供体制を整備し、生活リハビリテーションにも取り組む

その他：地域のニーズを鑑み、医療療養病棟49床を2018年介護報酬改定により新設された介護医療院へ転換を行い、『医療・介護の必要な方が住み続けられる施設』としてのサービスを提供する

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【②診療科の見直し】

	現時点 (2018年 3月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、精神科、小児科、血液透析、眼科、発達小児科、整形外科、リハビリテーション科、耳鼻咽喉科	現在の診療科を維持	地域における「かかりつけ医」機能を果たすにあたって必要となる診療科を維持
新設			
廃止			
変更・統合			

3 具体的な計画

(2) 数値目標

	現時点(2018年 3月時点)	2025年
①病床稼働率	急性期 : 91.3% 回復期 : 85.6% 慢性期 : 95.2%	急性期 : 90%以上 回復期 : 85%以上 慢性期 : 92%以上
②紹介率	7.3%	現状を維持
③逆紹介率	20%	現状を維持

3 具体的な計画

(3)数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

・病床の転換とダウンサイジング

地域の実情と疾病構造の変化を鑑み、2016年10月に天草地域唯一の回復期リハ病棟の設置、また2018年度診療報酬改定により新設となった介護医療院の新設により、地域の医療に根差した病院となれるよう、体制を整えている

課題：医療保険適応か介護保険適用なのか？病院内・法人内に医療施設と介護施設が混在しており、どちらで行うべきことなのか？今後、適正な医療を提供するためにも、患者やその家族と人生の最終段階における選択についての話し合いを十分に行う必要がある。

3 具体的な計画

(3)数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

・人材の確保

人口動態からもわかるように、地域の労働生産年齢人口は減少し続けている。それに対し、高齢者人口は高止まりとなり、今後しばらくは医療の需要も減らないため、働く人を確保することが大きな課題となる。様々な媒体での募集、施設説明会の実施等はもちろんのことながら、元気高齢者の雇用やEPAに基づく外国人看護師・介護士の雇用、技能実習制度にも力を入れている。

課題：現状では、様々な職種において慢性的な人手不足が続いており、人材の確保と同時に業務の見直し・効率化も必至である。

3 具体的な計画

(3)数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

・ グループ内連携と地域連携

グループ内の社会福祉法人(慈永会)においては、介護・居住系施設として、地域密着型特別養護老人ホーム（19床）、養護老人ホーム（50床）、また福祉施設として、重症心身障がい者施設（170床）を有している。現在、稲穂会・慈永会協働で在宅復帰病床利用委員会を週1回開催し、お互いに利用者の情報を交換し、スムーズな切れ目のない連携に力を入れている。

課題：法人内・グループ内に至っても医療分野と介護分野での壁は未だに存在する。お互いの固定概念を振り払い、

利用者を中心としたサービス提供を目指す。法人内・グループ内での成功経験を地域でも活かしていく。

【統一様式】

天草第一病院が担う役割について

平成30年11月 医療法人社団永寿会 天草第一病院

1 現状と課題

【自施設の現状】

<理念>人間の尊厳と生命力の偉大さを自覚し、愛と誠と感謝の心で地域の保健・医療・福祉の向上に貢献します。

1 標榜診療科 内科・外科・脳神経外科・循環器内科・泌尿器科・人工透析内科・人工透析血管外科・整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・消化器内科/外科・呼吸器内科/外科・大腸肛門外科・胃腸内科・神経内科

2 許可病床数 128床
(一般DPC32床 地域包括ケア病棟36床 医療型療養病床60床)
平均在院日数 一般13.6日 一日あたり外来患者数 約300名

3 透析治療 同時130床

4 救急車受入台数 490台/年(平成29年度実績)
平成29年における天草広域連合内の救急搬送数 5,243台/年

5 二次救急指定病院(病院群輪番制) 日本医療機能評価機構認定病院(3rdG. Ver1.0)
天草市施設健診指定 協会けんぽ生活習慣病予防健診指定機関
ISO 9001認証取得(透析センター) 透析研修指定病院

6 職員数 計201名(医師17名 看護職員92名 看護補助者34名 医療技術23名 事務系35名)
その他 非常勤医師25名(常勤換算1.9名) 運転手8名

1 現状と課題（その2）

【自施設の現状】

- 7 届出内容 急性期一般入院料5 地域包括ケア病棟入院料1 療養病棟入院基本料1
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）夜間休日救急搬送医学管理料
がん治療連携指導料 CT撮影及びMRI撮影 入院時食事療養（Ⅰ）
重症者等療養環境特別加算 療養病棟療養環境加算1 診療録管理体制加算2
検体検査管理加算（Ⅰ）データ提出加算 救急医療管理加算
急性期看護補助体制加算25:1 人工腎臓（慢性維持透析を行なった場合1）
透析液水質確保加算 慢性維持透析濾過加算 導入期加算1 総合評価加算
下肢抹消動脈疾患指導管理加算 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術 体外衝撃波胆石破碎術
感染防止対策加算2 認知症ケア加算2 入退院支援加算2
医科点数表第2章第10部手術の16に掲げる手術 後発医薬品使用体制加算1
- 8 その他 健康管理センター がん温熱免疫療法センター（ハイパーサーミア）
通所リハビリテーションはるかぜ 第一温泉（単純アルカリ泉）
- 9 関連施設 大矢野クリニック・地域密着型特別養護老人ホーム シャト一天草
天草中央地域包括支援センターなでしこ

1 現状と課題（その3）

【自施設の現状と課題】

当院は永野外科医院を前身とし、昭和59年に医療法人社団永寿会天草第一病院を設立し、創業以来47年目を迎えています。その間一貫して地域に根ざした患者様本意の医療サービスの提供に努めて参りました。透析治療に軸足を置きながらも、患者様の合併症等への対応のため診療科を随時増やして参りました。患者様が安全で、安心して治療が受けられるよう平成12年には第三者機関である（財）日本医療機能評価機構より認定を受け、その後5年毎に通算4回の審査を経て今日に至っています。私たちは、急性期、回復期、慢性期の医療機能を担っており、地域の医療機関、

施設等とも連携しながら患者様のQOLの向上に努めています。ご承知のように天草市の人口推計によれば、今後20年あまりで現状より2万人程度の人口が減少し、6万人を下回ることが予測されており、人口構造としても高齢化率は50%を超えることが確実視されています。持続的な質の高い医療サービスの提供のためには、働き手の確保が急務であり、人材育成と相俟って大事なことです。地域医療を担う者としての使命であると考えています。日本透析医学会統計調査委員会による「わが国の慢性透析療法の現状2016」によれば、1年間に39,344人の透析導入があり、平均年齢は69.4歳、原疾患として第1位は糖尿病性腎症（43.2%）第2位は慢性糸球体腎炎

（16.6%）となっています。当院においても同様の傾向であり、今後の腎不全治療の課題として、患者様の高齢化、重症化が進展しており、一方腎不全の予防にも鋭意取り組んでいかなければと考えています。

1 現状と課題（その4）

【自施設の現状】

当院においては、下記のように病床機能の再編を実施して今日に至っており、特段の事情がない限り2025年に向けて現状のまま推移する予定です。

病床機能再編の推移					
	平成2年	平成11年	平成15年	平成18年	平成28年
一般病床	128床	68床	68床	49床	32床
				亜急性期19床	地域包括36床
医療療養		60床	30床	60床	60床
介護療養			30床		

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

- 1 地域包括ケアシステムの一環として
在宅へ向けてのフォローアップ
急性期・回復期・慢性期機能の充実
- 2 診療科の充実
地域に必要な医療を拡充（整形外科等）
- 3 腎不全治療の充実
重症化及び予防対策と慢性維持透析の充実
- 4 在宅医療
訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、通所リハビリ等の連携、
他の介護保険関連事業所・施設等との連携

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期	0	0	0
急性期	32床	32床	32床
回復期 (地域包括ケア)	36床	36床	36床
慢性期	60床	60床	60床
その他	0	0	0
合計	128床	128床	128床

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 ① 4 機能ごとの病床のあり方 その2 】

1 急性期 二次救急医療の充実

平均在院日数13.6日（一般DPC）

2 回復期 地域包括ケア病棟の活用推進

急性期後患者、亜急性期患者の受け入れ強化

在宅復帰支援機能の強化

（在宅からの直接入院60% 在宅復帰率93.2%）

3 慢性期 医療型療養病床

医療区分3、2の割合 89.4%

（上記数値はいずれも平成30年3月現在）

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【②診療科の見直し】

	現時点 (平成30年11月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科・外科・脳神経外科・循環器内科・泌尿器科・人工透析内科・人工透析血管外科・整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・消化器外科・呼吸器内科・神経内科・大腸肛門外科・胃腸内科	内科・外科・脳神経外科・循環器内科・泌尿器科・人工透析内科・人工透析血管外科・整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・消化器外科・呼吸器内科・神経内科・大腸肛門外科・胃腸内科	現在の診療機能を深化充実させるため
新設	なし	なし	
廃止	なし	なし	
変更・統合	なし	なし	

3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(平成30年3月時点)	2025年
①病床稼働率	92%	92%以上
②紹介率	25.6%	30%以上
③逆紹介率	21.09%	25%以上

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

1 医療連携を推進

- * 地域医療連携室の機能拡充とそれに伴う人員の確保
- * 各医療機関等との顔の見える関係の構築

2 医療・介護専門職員の確保

- * 医師・看護師・保健師・薬剤師・リハビリ・放射線技師
社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員等

4 その他特記事項

【特記】

1 体外衝撃波結石破碎装置（ESWL）による治療

2 がん温熱免疫療法（ハイパーサーミア）

【統一様式】

苓北医師会病院が担う役割 について

平成 30年 11月 苓北医師会病院

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

<病院理念>

「地域に根ざした良質の医療・福祉・予防医療を提供し、地域住民の健康を守り、地域活性化の一助となる。」

<基本方針>

- 1.患者権利の尊重
- 2.安心・安全な医療の提供
- 3.地域医療への貢献
- 4.予防医療の推進
- 5.地域総合リハビリテーションの充実

当院は天草西北部に位置し、主な診療圏は苓北町、天草市五和町、天草市天草町であり診療圏人口は約12,000人である。高齢化が進み高齢化率41%であり人口減で過疎化がすすんでいる地域である。

診療科:内科、外科、整形外科、眼科、小児科、リハビリテーション科、婦人科(休診中)
一般病床30床(地域包括病床10床)、療養病床20床 総病床数50床

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

＜承認・指定関係＞

保険医療機関、結核予防法、生活保護法、原子爆弾被爆者一般疾病、開放型病院承認医療機関、難病指定医療機関、小児慢性特定疾病指定医療機関、労働災害管理健診指定病院、原子爆弾被爆者健診指定病院、身体障害者福祉法検診指定病院、協会けんぽ健診指定病院、船員保険健康診断指定病院(船員法指定医)、入国管理法及び難民法に係る指定病院、居宅介護支援事業所、日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設

常勤医師3名、定期非常勤(眼科、小児科)医師2名 週末の非常勤医師5名体制

看護師21名、准看護師10名、看護助手9名

薬剤師1名、理学療法士3名、臨床検査技師2名、診療放射線技師2名、管理栄養士1名

介護支援専門員1名、事務12名、調理師(員)6名、その他8名

＜施設基準＞

急性期一般入院料7(10対1)、地域包括ケア入院医療管理料2、療養病棟入院料2

後発医薬品使用体制加算2、診療録管理体制加算2、データ提出加算1

運動器リハビリテーション料(Ⅱ)、脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅲ)

開放型病院共同指導料、がん治療連携指導料他

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

<診療実績>

	H27		H28		H29		H30 (4月～10月)	
	年間入院数	病床利用率	年間入院数	病床利用率	年間入院数	病床利用率	入院数	病床利用率
一般入院	9,107 人	82.9 %	10,168 人	92.8 %	10,155 人	92.7 %	5,655 人	88.1 %
療養入院	6,895 人	94.2 %	6,977 人	95.6 %	6,593 人	90.3 %	3,686 人	86.1 %
	年間数	1日平均	年間数	1日平均	年間数	1日平均	外来数	1日平均
外 来	32,542 人	110.7 人	33,553 人	114.5 人	33,942 人	115.8 人	19,784 人	113.7 人

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

<救急患者数>

	時間外受診	時間外入院	救急車搬入	入院	CPA	検案
H27	964	48	87	43	2	5
H28	876	20	71	25	1	10
H29	739	56	78	42	2	6
H30 (4~10)	384	30	38	15	1	2

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

	他機関の内容	業務内容	対象者
保健・健診事業	苓北町 天草市	各種予防接種(苓北町、天草市、特定接種) 特定健診(苓北町、天草市) 協会けんぽ健診、 法定健診 結核・原爆健診	苓北町民、天草市民、 苓北町役場職員、 消防団 各事業所
協力病院業務	がりゆう園(老健) 楽洋の里(特養) はるかぜ(多機能ホーム) ひまわり(グループホーム) 菜の花(グループホーム)	入所者の診療に関して 協力病院として協力	弘仁会 慈正会 優愛会 (有)いずみ
その他	都呂々小学校校医 九電産業 産業医	児童の健康診断等 安全衛生委員会出席 職場巡視・衛生講話	都呂々小学校 (児童・職員) (株)九電産業

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

<課 題>

1. 常勤医師が3名で非常勤医師の常勤換算にて医師数が充足している。
また看護師不足により外来専従職員が少なく看護体制に苦慮している。
輪番制救急医療体制では深夜帯の外来対応看護師の不足に伴い、現在体制維持のため協議中である。
2. 今後の療養病棟の転換先。
3. 在宅医療への取組みが遅れている。
4. 経営の安定化 赤字の脱却黒字化。

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

苓北町を中心に五和町、天草町の一部を診療圏に地域医療を担う病院とする。

- 救急医療 輪番制二次救急病院の堅持。
- 初期診療から急性期、回復期、慢性期の幅広い医療を提供することを目標とする。
- 急性期病院の後方支援病院としての機能の充実。
- リハビリテーションを中心とした回復期のリハビリテーションの充実を図り、在宅療養への転換を進める。
- 居宅介護支援事業の推進。
- 在宅患者、介護保険施設からの緊急入院受入推進。
- 生活習慣病予防、消化器内視鏡検査によるがん予防など予防医療の推進。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期			
急性期	30	20	20
回復期		10	10
慢性期	20	20	20
その他		(20)	(20)
合計	50	50	50

病棟単位での医療機能

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その2】

当院の一般病床は急性期及び回復期の1病棟30床であり、苓北診療圏内における一般病床は他病院を含めて72床、その内地域包括ケア病床は30床あり、地域医療圏内の急性期病床42床の確保も必要であることから中等症を対象とした急性期病床及び在宅復帰を支援する回復期機能病床(地域包括ケア病床)を継続する。

1. 損傷、中毒等外因疾患(整形外科疾患など)
2. 眼及び付属器の疾患(白内障手術など)
3. 呼吸・循環器の疾患(COPD・慢性心不全など)
4. 消化器系の疾患(急性期・慢性期疾患、早期がん治療など)
5. 緩和ケア(慢性疾患、がん終末期に対する)

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その3】

療養病床においては現在、医療療養病床(20床)であり、医療区分2・3割合が50%超の状況である。今後も、医療区分2・3割合が80%超が困難であることが予想されることから、一部又は全部を介護施設への転換も考慮することとする。

尚、苓北町第7期介護保険事業計画及び高齢者福祉計画において医療療養病床から介護医療院への転換計画も策定されている。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【②診療科の見直し】

	現時点 (2018年9月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科・外科・整形外科・ 眼科・小児科・リハビリ テーション科・婦人科	内科・外科(消化器外 科)・整形外科・眼科・ リハビリテーション科	常勤医師の確保
新設		(総合診療科)	常勤医師の確保
廃止		小児科・婦人科	出生小児の減少と他 医療機関との競合をさ ける。婦人科は休診中。
変更・統合			

3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(2018年9月時点)	2025年
①病床稼働率	87.2%	90%以上
②紹介率	44.2%	40%以上
③逆紹介率	22.4%	20%以上

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

病床機能を維持するためには勤務する職員の確保が必須であるが、郡部の小規模病院であり、医師をはじめ看護師等の医療従事者の確保が困難であり、処遇を改善し更に多様な働き方改革を推進する必要がある。

その為には病院のPR活動及び求人体制の強化と魅力ある病院づくり、在宅へ向けた体制づくり、更に看護職員確保に向けた地域における病院の「強み」の模索を行うことが必要である。

また、輪番制救急病院としての機能継続のため、看護職員の体制づくりへの積極的な参加を促すための処遇の改善を行う予定である。

苓北町における事業所としては中規模事業所ではあるが雇用の確保、医療機能と経営の安定化に向けた施策が急務である。

4 その他特記事項